

# けんこう

## 岐阜県総合医療センター

- 平成26年9月発行
- 平成26年 秋号
- 発行責任者 滝谷博志
- 編集 総合医療センター広報委員会

### 岐阜県総合医療センターの理念

県民の皆様方に信頼され、患者様本位の安全で良質な全人的医療を提供します。

### 岐阜県総合医療センターの基本方針

- 岐阜県の基幹病院として急性期を中心とした医療を担当します。
- 科学的根拠に基づく医療の提供と医療安全に努めます。
- 必要な医療情報を広く公開し、医療の信頼性を確保します。
- 地域の医療機関や福祉施設との連携を重視します。
- 迅速かつ確実な医療とともに、効率的な病院運営に努めます。
- 医学的知識、医療技術の研鑽に努め、医学や医療の進歩に寄与します。



副院長兼診療局長兼  
がん医療センター長  
**國枝 克行**

ご  
挨  
拶

日本人男性の平均寿命が、2011年にはじめて80歳を越えました。

「健康で長生きすること」は私たち共通の願いですが、高齢化のスピードがあまりに速いため、多くの問題が生じてきています。

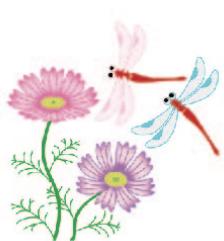
厚生労働省はきたるべき超高齢者社会に備えて、2025年を目標に医療、介護の大改革を行おうとしています。その中では、個々の病院の機能を明確にすることと、急性期医療から慢性期、在宅医療まで円滑に行えるシステムづくりが大きな柱になっています。岐阜県総合医療センターは岐阜県の基幹病院として、これまで以上に医療スタッフや設備を充実させ、高度急性期医療や救急医療を担つていく役割があると思います。

当センターは県立病院から地方独立行政法人に移行して5年目を迎えました。地方独立行政法人化の大きな利点として、患者さんのために必要なことは迅速に実行できる点があげられます。その利点を生かし職員数（非常勤を含む）は880人から1320人に、専門外来数は25から34に増えすことができました。以前に比べ、皆さんにより良いサービス

を提供できるようになつたと感じております。

岐阜県総合医療センターは救急医療、心臓血管医療、母と子ども医療、がん医療、女性医療の5つのセンター機能を持ち、重点医療として取り組んでいます。がん医療については、地域がん診療連携拠点病院に認定されており、各種がんに対してもガイドラインに則った医療を実践しています。また、最新診断技術を駆使してがんの早期診断に努めるとともに、根治性（治癒をめざす）と低侵襲性（身体にやさしい）の両方を追及した鏡視下手術や内視鏡治療を積極的に行ってています。先進的医療としては、手術支援ロボット「ダビンチSi」による前立腺全摘術をはじめ腎部分切除術や胃幽門側切除術を精力的に行っています。

私たちは、「岐阜県の皆さんがあなれること」を病院の使命と捉えて、毎日診療に励んでいます。



## 経カテーテル的大動脈弁留置術 (TAVI)

平成26年5月に経カテーテル的大動脈弁留置術（TAVI）を開始いたしました。現在、当センターは県内唯一のTAVI実施施設であります。

高齢や合併症があり従来の開心術が困難な大動脈弁狭窄症に適応があります。大動脈弁狭窄症は加齢に伴う病気でもあり65才以上で罹患率が2~3%と推定され、最もよく見られる弁膜疾患です。高齢に伴う病気の性質があるため、従来の手術が困難であることも多い病気です。

経カテーテル的大動脈弁留置術（TAVI）は、開胸することなく心臓も止めずに、大腿動脈などから人工弁を留置する方法です。大腿動脈からの治療は可能な限り切開を加えず、通常のカテーテル同様穿刺のみで行っております。

現在、当センターでは8名の患者さんへ手術を行い全て経過は良好です。

高齢化に伴い今後も多くなる病気であります。専門のTAVI外来を開設いたしましたので、症状がある心雜音を有する患者さんの評価、治療をすすめてまいります。



## 腹腔鏡・内視鏡合同手術 (Laparoscopy Endoscopy Cooperative Surgery)

内視鏡治療は、口や肛門から入れた内視鏡の孔に電気メスなどを通し、内側から粘膜などを切除する方法で、非常に早期の胃癌・大腸癌・食道癌に対する内視鏡下粘膜切除術などを内科医が行っています。病変が少し拡がっている場合は、外科で腹腔鏡手術が行われます。全身麻酔下に腹壁にポートと呼ばれる筒を刺し、ここから鉗子などの道具を入れ、胃や腸を外側から切除します。当センターではすでに多くの方にこれらの治療が行われており、以前に比べずいぶんと楽に治療が受けられるようになりました。

しかし課題もあります。内科医は、もう少し広い範囲の病変や粘膜下腫瘍などにも内視鏡治療をひろげていきたいと考えています。しかし大きく・深く切れば、胃や腸に孔が開いたり、出血したりするリスクも増えます。

一方外科医は余分な切除を極力減らしたいと考えていますが、胃や腸の外側からでは病変がわかりにくく、どうしても広めに切除せざるを得ませんでした。

LECSとは腹腔鏡・内視鏡合同手術（Laparoscopy Endoscopy Cooperative Surgery）の略称です。内視鏡治療の内科医と腹腔鏡手術の外科医が同時にを行うことで、必要最小限の侵襲で腫瘍切除を可能とする新しい手術方法です。

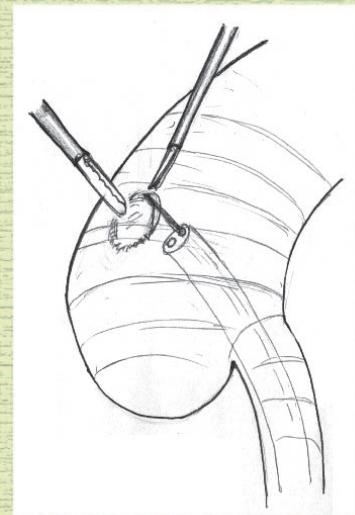
平成26年に保険収載が承認され、多様な可能性を秘めた手技として各方面から期待されております。

当院で行っている胃の粘膜下腫瘍切除手術の一例を紹介します。

手術室で全身麻酔がかかったら、腹腔鏡手術のスタンバイをした状態で、内科医が口から内視鏡を胃まで挿入し、内側から病変を確認し粘膜を切開します。病変の周りの粘膜切開を終えたら内側から胃の壁を切開します。外科医は腹腔鏡でお腹の中を観察しながら、この切開部分を手掛かりに胃を切開し病変を摘出し、胃を縫合します。こうして余分な胃を切除することなく病変を確実に切除することができました。

現在は胃の粘膜下腫瘍などがそのもともよ適応であります。今後はこれまで開腹手術でしか治療できなかった十二指腸の病変などはLECSによって治療できるようになります。またこれまでの早期がんに対しても、より正確でより安全な患者さんに優しい治療手技となると考えています。

長尾成敏（外科）　芋瀬基明・山崎健二（消化器内科）





# 平成26年度岐阜県総合医療センター健康祭



## 「こどもけんこうフェスティバル」のご案内

**平成26年度 岐阜県総合医療センター健康祭  
こどもけんこうフェスティバル**  
たのしみながら子どものけんこうを学ぶ!  
参加費無料・どなたでも参加できます・ぜひお子さまと一緒に!

日時：平成26年11月15日（土）12:00～16:10  
場所：岐阜県総合医療センター（情報交流棟3階等）

開会挨拶 大会議室 理事長兼病院長 滝谷博志 12:00  
ミニレクチャー～医療を学ぶ～ 大会議室

1. 子どもの発達と発達障害のチェックポイント  
小児科 今村 淳 12:10-12:40

2. 知っておきたい食物アレルギー  
新生児内科 近藤 懇 13:20-13:50

3. 家庭でできる小児救急処置～こんなときどうする？～  
小児科 松波邦洋 14:30-15:00

4. カテーテル治療でどこまで治せるの？  
小児循環器内科 桑原直樹 15:40-16:10

展示 大会議室・3階ホワイエ・本館1階ロビー

- 子どものスキンケア
- もしもの時にできる小児救急処置～AED模擬体験～等
- 人形劇 はなさかじいさん 中会議室  
12:40-13:20 1回目 15:10-15:50 2回目
- ピッグバンドコンサート  
13:40-14:40 1階ロビー

あそび あんぜん えいよう 12:00-16:10 講堂

- 遊びスペース
- 子どもの発達とあそび：あそびことはイコトだ！
- 家庭での安全チェック
- 子どもの「たべる」をかんがえる
- こともの口腔とオーラルヘルスケア
- 赤ちゃんの健やかな成長を支える母乳育児

事前登録  
→QRコードから  
(託児10名程度  
予約可!)  
[http://www.gifu-hp.jp/kenko\\_fes\\_2014/](http://www.gifu-hp.jp/kenko_fes_2014/)  
事前登録なしでも参加可  
お問合せ先:058-246-1111内5525  
総務課管理調整担当

岐阜県総合医療センターは、一般の方を対象に健康祭を毎年開催しています。今回は「こども」をテーマに健康祭を企画しました。「たのしみながら子どものけんこうを学ぶ」ことができるよう準備しています。子どもにもたのしめるよう工夫しました。多くの方がお子さまと一緒にご来場下さることをお待ちしております。

副院長兼  
小児医療センター長  
桑原尚志



## 医療クラーク、看護クラークの紹介

当センターでは、「医療クラーク」と「看護クラーク」と呼ばれる職員（職種）が診療現場で働いています。

医療クラークってドクター？看護師？・・・いえいえ、正式には『医師事務作業補助』といいます。この職種は、病院に勤務する医師の事務作業が膨大となっていることから、その負担を軽減するために、国（厚生労働省）が診療報酬（医療費）で手当てすることで採用が可能となった職員です。具体的には患者さんから申請された生命保険の診断書等を担当の医師に代わって下書き（最終の確認は担当医師が行います）したり、簡単な検査等の説明を行うなど医師の事務的な負担を減らし、診察などの診療業務に専念できることを目的としています。

また、看護クラークは、看護師が看護業務に専念し専門性が發揮できるよう、看護師と協働して業務を行なっています。内容は、診療や検査処置に必要な書類の準備、入退院時の案内等受付業務です。

ユニフォームは水色のチェックが医療クラーク、ピンク色のチェックが看護クラークです。当院に配置して3年以上の職員がほとんどです。困ったことがあれば気軽に声をおかけください。



## 看護部からのお知らせ

当センターでは、医療の高度化・専門化に伴い、看護の現場においても専門看護師、認定看護師等の資格を取得し看護の質の向上に取り組んでいます。現在、3名の専門看護師と19名の認定看護師が在職して、それぞれの分野で活躍しています。

今回は、「糖尿病看護認定看護師」の取り組みを紹介します。

## 糖尿病患者さんによる良い療養生活を目指して

糖尿病または糖尿病が疑われる人は2050万人と言われており、国民の5人に1人が該当すると言われています。糖尿病の治療は、食事療法・運動療法を中心に、薬物療法を加えた患者さんの自己ケアが重要となってきます。生活様式が多様化する中、自己ケアを続けて行くことは容易でないことがあります。

糖尿病看護認定看護師として、糖尿病患者さんの病気の悪化を防ぐと共に、その人らしく健やかな生活を継続できるように、自己ケアや療養生活を支援していきたいと考えています。

### 支援内容

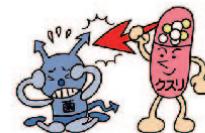
#### 1. 療養生活の支援

インスリン自己注射や自己血糖測定の方法の説明を含め、糖尿病の療養を行うための自己ケア方法を、患者さんの生活に合わせて一緒に考えていきます。

#### 2. 合併症の予防

糖尿病の合併症を予防、または、進行させない方法の説明やケアを行っています。糖尿病フットケア外来、透析予防外来では、合併症がある方への療養支援を行っています。

フットケア外来で足、爪のケアを行っている様子です。



### 当院受診時にはかかりつけ医からの紹介状をご持参ください

地域医療連携センター部 部長 杉原 潤一

当センターは県から地域医療支援病院の承認を受けております。「地域医療支援病院」とは、地域の病院や診療所を後方支援するという形で、医療機関の機能の役割分担と連携を目的に創設されたものです。つまり、地域のかかりつけ医（開業医）から紹介された患者さんを当センターが受け入れ、急性期の治療が終了して病状が落ち着けば、その後はまた地域のかかりつけ医に戻っていただく、という診療体系になります。

患者さんの今までの病状をよく把握し、より良い医療を提供させていただくため、かかりつけ医からの紹介状（診療情報提供書）を持参してのご来院を是非お願いいたします。紹介状があれば、保険外併用療養費（2160円）の負担がありません。また、受診の際にはかかりつけ医より当センターの連携室を通じてFax予約をしてご来院くだされば、待ち時間が短縮され、予約の日時にスムーズに受診していただくことができます。ぜひかかりつけ医を持って、Fax予約の上で、紹介状を持参して来院してください。

<エントランスホールに掲載された開放型病床登録医療機関パネル>

当センターは389医療機関と連携しており、全ての医療機関からの紹介を受けております



### 編集後記

広報紙「けんこう」第29号をお届けします。

記事中でもご案内させていただきましたが、11月15日「こどもけんこうフェスティバル」には、多くの皆様のご来場をお待ちしております。

また、取り上げてほしい情報などありましたら、お気軽にご意見をお寄せください。

### 岐阜県総合医療センター 広報委員会

〒500-8717 岐阜市野一色4丁目6番1号

TEL.058-246-1111 FAX.058-248-3805

Eメールアドレス info@ifu-hp.jp

ホームページアドレス <http://www.gifu-hp.jp>



この印刷物は環境にやさしい  
大豆油インクを使用しています。